

新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 オプトアウト

①研究課題名	筋萎縮性側索硬化症（ALS）の創薬標的検証を目的とした病理学および生化学的研究
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
対象者：2001年4月1日以降2021年12月31日までに、新潟大学脳研究所病理学分野で病理診断されたALS（筋萎縮性側索硬化症）の患者さんから15名程度、および中枢神経疾患を持たない患者さんから10名程度です。	
③概要	
<p>新潟大学と武田薬品工業の共同研究により、パラフィン包埋切片および凍結脳脊髄組織を用いて、筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者脳および脊髄における創薬標的候補分子やその関連分子、および病態発症メカニズムに関連する分子の解析を実施します。そして、病態の理解を深めるとともに治療コンセプトの検証を行います。これにより、創薬標的の妥当性を確認し、有効な治療薬の創出につなげることを目的に本研究を計画致しました。</p>	
④申請番号	2018-0346
⑤研究の目的・意義	<p>筋萎縮性側索硬化症（Amyotrophic Lateral Sclerosis, ALS）は、一次運動ニューロン（上位運動ニューロン）と二次運動ニューロン（下位運動ニューロン）が選択的にかつ進行性に変性・消失していく原因不明の疾患です。病勢の進展は比較的速く、人工呼吸器を用いなければ通常は2～5年で死亡することが多いため、これまでにさまざまな治療薬が研究・開発されてきましたが、現在承認されている治療薬は生存期間をわずかに延長するのみであり、効果としては十分ではなく、新たな治療薬創出が強く望まれています。</p> <p>具体的に本研究では、新潟大学と武田薬品工業の共同研究により、ALS患者脳および脊髄標本を用い、創薬標的候補分子やその関連分子、および病態発症メカニズムに関連する分子の同定を目指した解析を実施します。</p> <p>本研究では、新たに見出したALS創薬ターゲット分子について、そのALS剖検脳および脊髄での組織分布や発現を解析することで、ALS創薬ターゲットとしての妥当性を検証することを目的とします。</p>
⑥研究期間	倫理審査委員会承認日～2024年6月30日
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	武田薬品工業株式会社リサーチニューロサイエンス創薬ユニットに試料及び付随する臨床情報（年齢、性別、疾患名、罹病期間、中枢病理所見）を提供し、筋萎縮性側索硬化症（ALS）の治療薬の開発に役立てます。

⑧利用または提供する情報の項目	病理解剖にて採取した脳組織（パラフィン包埋及び凍結）、臨床情報（年齢、性別、疾患名、罹病期間、中枢病理所見）
⑨利用の範囲	新潟大学脳研究所病理学分野及び武田薬品工業リサーチニューロサイエンス創薬ユニット
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学脳研究所病理学分野 柿田明美 武田薬品工業株式会社リサーチニューロサイエンス創薬ユニット 宇野裕美子
⑪お問い合わせ先	新潟大学脳研究所病理学分野 柿田明美 電話：025-227-0673 FAX: 025-227-0817 e-mail: kakita@bri.niigata-u.ac.jp